

令和3年度第1回平塚市下水道運営審議会 会議記録

日時 令和3年8月30日(月) 14:00～15:40  
場所 平塚市役所本館4階410会議室

出席委員 11人  
西田会長、永吉会長職務代理者、秋澤委員、江口委員、川島委員、  
大伴委員、小宮委員、露木委員、石黒委員、相原委員、甲斐委員

事務局 8人  
土木部 武井部長  
下水道経営課 田村課長、清田課長代理、石橋課長代理、塩坂主査、  
岡部主事  
下水道整備課 勝俣課長、谷田部課長代理

傍聴者 0人

1 議題

- (1) 令和2年度平塚市公共下水道使用料について
- (2) 平塚市下水道ビジョン(たたき台)について

2 その他

平塚市下水道運営審議会の書面開催方法(案)

配布資料

- (1) 令和3年度第1回平塚市下水道運営審議会次第
- (2) 平塚市下水道運営審議会委員名簿
- (3) 平塚市下水道事業公共下水道使用料について(令和2年度)
- (4) 経営戦略抜粋
- (5) 平塚市下水道ビジョン(たたき台)
- (6) 平塚市下水道運営審議会の書面開催方法(案)
- (7) 平塚市下水道運営審議会規則

○会議の公開について事務局から説明

これより会長による議事進行

会長

では、(1)「令和2年度平塚市公共下水道使用料について」、事務局から説明をお願いいたします。

(1)「令和2年度平塚市公共下水道使用料について」

事務局(下水道経営課課長代理)から令和2年度平塚市公共下水道使用料について説明。

会長

ただいまの事務局の説明について、何かご質問等がございますでしょうか。

委員

平塚市下水道事業経営戦略を見ますと、未収金がある程度の要素としてあるということが書いてありました。もし未収金がなければ、令和2年度の経費回収率はどのぐらいになりますか。

事務局

毎年、未収額は一定額ではなく、時効があるため、5年間かけて継続的に料金徴収を進めております。ただ、その5年を経過してもなお、お支払いいただけなかったものが不納欠損となり、これが毎年300万円から400万円ほど残るような形となっております。使用料収入が今32億円ほどありますので、不納欠損分が上乘せされても、おそらく0.1%に満たないような数字になるかと思われま

委員

下水道にもコロナウイルスが流れるという話が一部でありました。実際にそういうことがあるのか、そういうことに対する対策費をどうしていますか。

事務局

具体的にコロナ対策経費として、施設の中にウイルスが混入してるか否かというような調査に関しての費用というのは計上しておりません。ただ、例えば保健所などから、広がり方の調査などで下水道を探るということを具体的に進めていこうということであれば協力をしていきます。

下水道は、排水されたものを処理して川に流し、また雨になってとサイクルしていきますので、生活排水から流れたウイルスがまた自分の口に戻ってくるというようなことは基本的にありません。

委員

水道水は下水に流れて循環されて、例えば、工場用水などに使っていると思いますが、その中にウイルスが入ることはないのですか。

事務局

処理場で処理をした水は一旦川へ流してしまいます。そのまま使うということはありません。

委員

水道水については、相模川から取水しておりますので、下水から取水することはありません。水道水の水質は厚生労働省で決められており、水質は日々チェックしておりますので、皆様方が口にする水は問題ありません。また工場で使用する水は地下水を使う場合もありますが、工場等で、一般的に、水質チェックをし

ています。

#### 委員

今現在、いろいろなところの情報から、下水処理の中でウイルスが不活化するという情報があります。下水処理の最後は必ず次亜塩素酸ナトリウムで消毒していますので、水道水にウイルスが流れ込む確率は低いと思われます。ただこの調査は全国的にも途中なのではっきりとは言えません。

#### 委員

全国的にも、新しい変異株が次々と確認されています。そういったことへの対策はどう考えていますか。

#### 委員

新しい変異株については情報が無くわかりませんが、新たに流入してくる下水はまだ不活化されていない状態ですので、職員の対策としては現在と同様に手袋やゴーグルなどの対策をしっかりとやっていきます。

#### 委員

下水道使用料を、基本的に3年で見直すということでございました。市内の下水管についてはそれほど老朽化していませんが、今後、更新時期が来たときにすごい費用がかかることが予想されます。将来を見越し、世代間の平準化をする意味で、使用料を少しずつ上げていくなどの考えはありますか。

#### 事務局

現在のところの経費回収率が119.5%ですので、すぐにそこに手をつけられるか議論の余地があるところでございます。ただ、将来に備えて、長い世代で負担していくというのは、今後、下水道使用料の検証するにあたり考えなければなりません。また、資産維持費といったこれから消耗していくものの費用も課題の一つとしては考えておりますので、改めて3年間の検討の中に含めながら、使用料の検討を進めていきたいと考えております。

#### 委員

人口減少社会になってきています。下水道施設の更新時期が、あと何十年先かわかりませんが、その時に当たった世代だけが長く負担するようなことがないように、予めそういう場合があることを市民に周知していくということ、アピールすることも重要だと思えます。

#### 事務局

使用料収入自体は、先細りする人口などもあり減っていくのではないかと考えております。また、老朽化対策として、いろいろな対策をする費用というのが、今後かかっていくであろうというところがありますので、長い目で見て、費用負担をし

ていただく必要があります。経営戦略の中でも、広報に力を入れていかなければならないと書かせていただいておりますが、費用負担というのがこの先大きくなっていくというのが、下水道施設を適切に維持していくために必要なことだと市民に知っていただくということが一番だと考えております。

会長

ただいまの事務局の説明について、何かご質問等ありますでしょうか。

(発言なし)

会長

では次に、(2)「平塚市下水道ビジョン(たたき台)について」、事務局から説明をお願いします。

## (2)「平塚市下水道ビジョン(たたき台)について」

事務局(下水道経営課課長代理)から平塚市下水道ビジョン(たたき台)について説明。

会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご意見、ご質問等がありますでしょうか。

委員

先だっの7月の大雨のとき、河内川周辺地域の浸水というのが問題になりましたけれども、河内川の浸水対策、あるいは洪水対策について、下水道ビジョンの中ではどう反映されていますか。

事務局

河内川の浸水対策としては、上流にある調整池を活用して貯水量を増やし、河内川への雨水の流入量を抑えることを考えております。また、神奈川県でも河内川の改修などを計画していると聞いています。

今回の下水道ビジョンでは、今のような部分は浸水対策基本計画というところに反映されております。下水道ビジョン自体は、大きな展望を示すような形に変えたかと思っておりますが、それだけではわかりづらいこともありますので、個別の計画で何をやっているのかが簡単に見てとれるような形にできるよう表現したいと考えています。

委員

河内川の件で、2回の大きな旭地区の出水がありました。それこそ、ひざ下ぐらいまで水位が上がったこともありました。早急に計画を進めていかないと、ポンプ

場の破損とか、そういった事態に陥る可能性もあると思いますので、ぜひ、計画を進めてもらいたい。それと、私の記憶では、河内川と金目川の合流地点の工事以降、それまではあまりなかった出水が起きているように思います。ポンプ場等含めた形で整備をしていただければと思います。

#### 事務局

山下地区は自然流下分と、山下ポンプ場に流入する分がございます。ご指摘の浸水被害を解決すべく、山下のポンプ場を增強する計画があり、早く進めてまいりたいと考えております。

#### 委員

四之宮でも、一昨年大雨による被害がありました。それぞれ起きてる理由は違うと思います。対策についても、国とか県とか市に跨がって本当に大変だとは思いますが、目に見えない形のビジョンというのが欲しいんですね。昔から住んでる方に聞くと、下水道公社の周りは水が出て当たり前なんだ、昔は泳いでいたなんて話もあります。しかし、実際それでは困るので、いろいろ目に見えない形で対策していただきたいです。酒匂川下水処理場見学に行った時に、大雨が降ったらどうなるのか伺ったのですが、溢れるものは溢れると言われたことがありました。処理量を超えた水が押し寄せてきたときはどうなってしまうのか。そういう問題を今後、どうやって解消していただけるのか教えていただきたい。

#### 委員

今まで処理場に長く勤めておりますけれども、処理量を超えて溢れたという経験はありません。近年は雨量が多いですが、この流域の処理場の管渠は非常に大きく余力があるので、まず、雨予測が前もってあるときは、水位をできるだけ低く保つよう、早めに処理して、管渠もすべて貯留用に変えるなどの対応をします。処理場は晴天時、能力の大体7割ぐらいで処理しているので、多少、ある程度の雨が入ってきても処理できます。合流地区があるところは、もう東京都などのニュースでご存じかもしれませんが、一次処理としてある程度沈殿処理をします。そのあと、普通に処理をする工程と、処理しきれない部分については消毒処理までして流します。ただ、その時の考え方としては、かなり雨が降って薄まっているということで、環境負荷は低いということでそういう運転をしています。現在はそうした対応をしていますが、何十年に一度の雨を見越して、処理設備を大きくして投資をするというのも、普段は結局使わないので、やはりちょっと無駄になってしまいます。その辺の兼ね合い、難しいのかもしれませんが、私どもは、今ある施設をフルに使って、処理するというのが、一番の使命だと考えています。

#### 事務局

四之宮地区においては、地区の方々への説明会でも説明させていただきました通り、ポンプ車の導入、仮設ポンプを用意するなど対策をしております。かなりの水が来た場合、それで完全に大丈夫というわけではありませんが、被害を軽減させるため、できる限り対応をさせていただいております。また、四之宮の処理場には平塚市だけでなく、上流の厚木市、相模原市など、さらには大磯町からも流入してきますので、連合体で一体となって検査を含め対策をしていくという会議を立ち上げ

ております。現在具体的にどうするのかというのはまだお示しすることはできませんけれども、その会議の中でしっかりと考えて参ります。

#### 委員

後年の世代に負担を残さないためという話が出てたと思うんですけれども、民間企業ですと何か費用が必要な場合、引当金というものをとって対応しています。修繕引当金、退職引当金、貸倒引当金などをとっています。企業会計で対応できるのであれば、減価償却費分だけでも毎年積み立てていくという形になれば、いざというときに修繕が発生しても、それが使えるのではないのでしょうか。

#### 事務局

修繕については、計画を作る必要がございますので引当金は計上してございません。それとは別に、建設改良の積立金ということで、将来改築更新ですとか、建設改良事業が増えていくという予想ですので、そうなった時の積み立てということで、利益から積み立てております。経営戦略の中では、毎年1億円ぐらいは積み立てていくという計画で、今のところ計画通りにしております。

#### 委員

下水道ビジョンの上位計画として、平塚市都市マスタープランっていうのがありますが、その中に電線ケーブルの地中化というのは計画されているのですか。もしされているなら、さわりだけでも教えていただければ。

#### 事務局

道路の中期ビジョンというのがございまして、その中では災害時、風、地震等で電柱が倒れて、道路閉塞をしないようにするため、あるいは、景観上電柱があるのは良くないですとか、あとは、ツインシティ大神などの新しいまちづくりには、地中化をしていくというざっくりとしたものが道路の中期ビジョンにあります。また、昨年度、国で無電柱化推進計画というのを出していますので、それに基づいて、平塚市でも無電柱化の推進についての検討を始めようかというところです。これは下水道ではなく、道路部局の話です。

#### 委員

下水道と一緒に電線等を通すワンユニットという考え方があり、そういうことをしている自治体がありますが、平塚市はその辺りをどう考えていますか。

#### 事務局

広域化、共同化などの話の中で、下水道管の上にケーブルを這わせたりとか、そういう話も出ております。ただ、これを各市町、地方公共団体として、どこまでできるかはそれぞれ考えているという段階で、平塚市としてそこまで踏み込んだ話はまだしてありません。

#### 委員

今後、下水道の管を道路の真ん中に入れたいようにしてほしいです。マンホールが全部、自動車が走るレーンに設置されています。自動車が走るときにガタつき危ない状況が度々見られます。地中ユニット化していくことになれば、工事を行うでしょうから、そのときは歩道に設置して欲しいです。歩道に設置しか設置できないことにすれば、歩道分の敷地を確保できないところは道路を通せなくなり、トラックが子供をひいてしまうとかそういう問題が無くなるのではないかと思うので、そういう考え方を取り入れていただければありがたい。

#### 事務局

大きな道路計画のところでは、仰ったように、下水道の管渠を歩道に入れるようにしていますし、そういう方向であるとは思っております。

#### 委員

狭い道路は無理して二車線にする必要は無く、歩道を確保したうえで一方通行にするというような観点も視野に入れられた方がよろしいかと思う。

#### 委員

他の自治体でも下水道の長期ビジョンはあまり見受けられないので、ビジョンをつくるのは大変なのかなと思います。上水道はよく長期ビジョンを作るのですが、どのように作るかというところ、まず、将来環境をどう見るかというところを一番にとらえます。将来環境をどう見て、それに向けて基本理念があって、将来環境がどう変わっていくかというところがあって、それで理念に近づくためには、どのような施策展開をしなければいけないか。こういうふうに作っていきます。今回の下水道ビジョンでは、災害に強いとか、施設の計画っていうことがあるが、例えば、経営環境が厳しいことっていうところをどのようにとらえるかがあまりない。現状と課題から出発する前に、将来環境をどう見るかというところが水道では結構重要視しています。20年ということであれば、将来環境をどう見るかという視点が重要なかなと思います。それから、ちょっと観点を改めて、最後の進捗管理というところがあります。ここでは、個別計画の進捗管理のことを言っているようでビジョンとはちょっと違うのかなと思います。ここでは、いわゆる長期ビジョンから個別計画まで一本とした指標をどうとらえるか。つまりどういうところで達成したとみなすかというところの統一的な観点が必要だと思います。そこをやらないと進捗管理のところ厳しくなると思います。これをどういう風に、管理をしていくのかというところを詰めたほうがいいです。あと、5年ごとに見直すということなのですが、その5年を中間年と考えるのか、どういう区切りと考えるのかという考え方が必要かなと思いました。経営戦略は10年だが、他の計画がどうなっているかを見て、5年をどうとらえるかが必要かなと思いました。

#### 委員

それはリスクアセスメントと考えていいのですか。

委員

リスクアセスメントと少し違います。計画論の話ですね。指標では、リスクアセスメントというよりは計画作りの中でやるのですが、計画の達成をどう見るかというのを最初に作るわけですね。リスクとは少し違うんですけど。計画の達成を評価するのはですね。評価のスケールを普通は定めるのですよ。例えば、水道でいうと年間更新率が何%に達していれば、その事業はきちんと成功したというふうに見なすと最初に決めるのですね。

委員

基本的にはリスクのアセスメントとして指標を立てていけばいいということですか。

委員

リスクというよりは、事業の進行度をどう見るかということで、リスクとは異なります。

事務局

貴重なご意見だと思いますので、反映できるところは反映させていただきたいと思います。

委員

今お聞きして、地中にある下水道管、水道管、ガス管っていうのは、同じように20年ぐらいで耐震化を図るということで資料に書いてあるんですけども、例えば今、下水道がこういうビジョンを出されるのなら、水道管とかと一緒に同じような期間でそれができるようなことも考えていただいたらいいのかなと思います。ばらばらにやっていると、道路をあちこちで工事しているみたいになりますので、耐震化など含め連携してやれたらいいのかなと思います。

事務局

新しく街をつくるときには、計画して工事をするため、何度もほじくり返して作るなんてことはしません、下水道、上水道、ガス、もちろん管理をしているところがそれぞれ別ですし、対応年数も違います。なので、最初は揃うかもしれませんが、その次がなかなか揃わないというのが現状です。

委員

水道管の耐用年数っていうのが、今新規の物は100年で、他には60年、70年、80年とそういう形で、どこの管が古いかという更新計画というのは作っていますので、それが下水道と合うかどうかっていうのはわかりません。ただ、今お話があった連携というところで言うと、具体的な、例えば、現場で工事の時期が近いものであったりしたときは調整会議をしています。ただ、今話があったように、すべての管を全部、計画的に合わせてやることはできないことはご理解いただきたい。



#### 事務局

工事の調整では、道路調整会議をやっています。各事業者を集め、毎年、年2回ぐらいの会議をやっております。水道、下水、ガス、電気、いろいろな事業者で、来年度どこを工事しますというようなことを情報共有し調整をするので、そういう意味では効率的にはなっているかと思えます。

#### 委員

主な事業として細かく幾つか挙げられていますけれども、業務スリム化というのかどうかわかりませんが、何十年先を見ていろいろやっていたらいいと思いますけれども、今やっていることを民間に委託する考えはありますか。

#### 事務局

先ほども少し触れたところなのですが、国の方から、効率的にというところで、同じようなことをやってるんだから、広域化、共同化とか、そういったことの中で、民間の力を見直し、民間の力を使うことを検討してみてもいい流れはあります。ただ、平塚市の、特に下水道の場合は、流域下水道という形で元々広域的に、共同的にやるところがありますので、まずはそこを有効に使って、さらに広くとらえるようなことがあればもっとやるみたいなことを考えております。

#### 会長

ほかにご意見はございますでしょうか。

(意見なし)

#### 事務局

この場で頂いたご意見を参考に、このたたき台をブラッシュアップしていき、「下水道ビジョン素案」という形にくみ上げていきます。今年の10月から11月くらいに、第2回の下水道運営審議会を開催させていただき、ここで「素案の案」をご提示をしてご意見を頂戴したいと思っております。年末から年初のところで、パブリックコメントを出させていただきまして、年度末には、最後の下水道運営審議会の場にて、「下水道ビジョン素案」の完成版を皆さんにご報告させていただくような流れで考えております。

#### 会長

もしできればということをお願いしたいのですが、ビジョンですので、細かいものを全部入れると、かえって訳がわからなくなると思いますが、そこまでやる必要はないと思うんですが、多少なりとも一般の方が見て、今どれぐらいできていないのか、それが平塚市にとってどれぐらい大きな課題なのかが分かるよう、多少入れていただいたもので素案を作っていただきたい。

会長

それでは、頂いたご意見につきまして、下水道ビジョン作成においてご留意いただければと思います。

次に、次第2「平塚市下水道運営審議会の書面開催方法（案）」について、事務局から説明をお願いいたします。

## 2 その他 平塚市下水道運営審議会の書面開催方法（案）

事務局（下水道経営課課長代理）から平塚市下水道運営審議会の書面開催方法（案）について説明。

会長

ただいまの事務局の説明について、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

（発言なし）

会長

それでは、事務局ご提案の通り、状況に応じて書面開催をさせていただくことといたしますので、お願いいたします。

最後に、各委員の皆様から何かございますでしょうか。

委員

別室での事前説明会の時に、マンホールカードのことが触れられていました。市民に対して、下水道事業の理解のためにということであれば、もっと多くの場所で有意義な資料を付けて配った方がいいのではないのでしょうか。もし、マニアを対象にしているのであれば、全国で650ヶ所以上で配ってると思いますけれども、平塚市がカードを配っている場所とカラーマンホールの場所が全然違うので、マニアのためにもなっていません。とは言いつつ、マニアは多分遠くからでも来ると思いますがけれども、コロナ渦で人流の抑制という意味では、配布を止めている自治体もあると聞きます。平塚ではどうなっていますか。

事務局

配布につきまして、配布方法を人との接触がないような形にさせていただいているのと、配布場所的にも四之宮ふれあいセンターだけというところで、密になることがないだろうという想定のもと配布を続けております。ただ、検討が進んでいない部分もあり、人流を抑えるという意味では一旦配布を止めることも改めて検討していきたいと考えます。

会長

他にご質問等もないようですので、2「その他」は終わらせていただきます。

委員の皆様には、会議の円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。それでは事務局にお返しいたします。

事務局

ありがとうございました。

西田会長お疲れ様でした。では、以上をもちまして、令和3年度第1回下水道運営審議会を閉会とさせていただきたいと思います。

委員の皆様、本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。